

タイトル	看護師長が行う中途採用者の定着に関する働きかけ
著者	佐瀬，美恵子； SASE, Mieko
引用	
発行日	2025-03-20

〔 1 〕

氏 名 ・ (本籍地)	^{させ} 佐瀬 ^{みえこ} 美恵子 (北海道)
学 位 の 種 類	博士 (経営学)
学 位 記 番 号	博 (経営) 甲第 16 号
学位授与の日付	令和7年3月20日
学位授与の条件	学位規則第4条第1項該当
学 位 論 文 題 目	看護師長が行う中途採用者の定着に関する働きかけ
論 文 審 査 委 員	主 査 教授 大 平 義 隆 副 査 教授 今 野 喜 文 副 査 教授 増 地 あゆみ

論 文 内 容 の 要 旨

佐瀬論文の背景には、2040年には合計800万の団塊ジュニアがすべて65歳以上になり、高齢化するとともに医療従事者もそれに合わせ激減するという大きな問題がある。佐瀬氏は、医療の現場にあって、経済的な合理性ではなく社会的な関係で中途看護師の多くが離職は新人に比較し離職しやすい中途採用看護師と現場の力学に着目した。

中途採用看護師と、チームメンバーと師長の関係の中で、師長のかかわり方としてみる場合、次のように整理した。チームはゼロベースで参加を望むが、中途者はどこでもやっていけるという看護師の高いプライドを持っているので彼らに合わすことは困難だが、同時に働く居場所が欲しいとも考えているので、調整役が必要であり、調整が可能だと理解した。

佐瀬氏は、多くの調査、研究を整理し、中途者採用者がチームメンバーになるには、師長の働きかけが必要だとし、次のような理由を上げ、既存メンバーは中途者にゼロベースでの参加を求めること、中途者は看護師としてのプライドが高い場合が多いため、第三者の介入が必要になるはずだ、ということ、中途者を加えることで、新たな基準が必要になることを指摘し仮説を立てた。仮説は、師長による働きかけの仮説だ。第1は、中途者と既存メンバーに向けた、中途者が承認されるようにする働きかけがあること。第2に、中途者と既存メンバーに向け、新たに判断基

準の提示があること。第 3 に、中途者と既存メンバーが定着の確保ができるまで繰り返し努力することだ。調査と分析の結果、これらは指示された。

論文審査結果の要旨

1 審査の経過

佐瀬氏から、1 月 21 日に提出された論文は、2 月 1 日に行われた公開報告会后、2 月 10 日の口頭試問を経て、今回の研究科委員会報告になっています。

2 評 価

まず、第 1 に、社会性の高い問題をテーマにしていること、第 2 に、先行研究から仮説を立て検証ができていること、などが評価できる点であげられます。くわえて、この研究は組織研究であると思われます。組織研究の深化につながる期待が持てます。

もちろん、細かな問題はたくさんありますが、佐瀬氏が、自分が生きる看護の世界を少しでも人の役に立つ意味のあるものにしたいという強い思いが感じられ、その結果、全体の一部ではありますが、現実を明らかにすることができたと思い、この論文を高く評価することができると思います。

以上の諸点を考慮し、かつ口述試験の結果を踏まえたうえで、当審査委員会一同は佐瀬美恵子氏により提出された博士論文を合格と判定する。

3 学内の手続き

1. 審査委員会：上記したように、2025 年 1 月 21 日に提出された論文は、2 月 1 日に行われた公開報告会をへて、2 月 10 日に審査委員会による口頭試問が行われ、2 月 21 日に研究科委員会で主査による審査報告が行われた。

2. 研究科委員会：その後、1 週間、論文が公開され、2 月 28 日、研究科委員による投票が行われた。その結果、論文は合格となった。続いて、2 月 28 日から 3 月 1 日までの間で経営学研究科委員会が開催され、メール審議によって卒業審査が行われた。この結果、意義がなく、承認された。